



# 一橋大学附属図書館概要

令和7(2025)年度

## 目 次

1.	一橋大学附属図書館の機能・特色	1
2.	令和6年度の活動状況	4
3.	統計	13
4.	機関リポジトリ	15
5.	利用案内	20
6.	施設	22
7.	組織	26
8.	沿革	29

《表紙写真》 附属図書館 建物正面 (H27.4 撮影)

本概要に掲載された文章、写真、図版等の著作権は、特記あるものを除いて、すべて一橋大学附属図書館に属します。著作権者の許諾を得ずに、著作権法の定める範囲を超えて、本概要からの転載等を行うことは禁止されています。

## 1. 一橋大学附属図書館の機能・特色

一橋大学附属図書館は、資料を集中化させる中央図書館制度を採っており、商法講習所の開設以来約 150 年を経た本学の歴史の中で、社会科学を中心とした約 210 万冊の図書や約 17,100 タイトルの雑誌、60 にも及ぶ貴重なコレクションを蓄積してきた。

さらに、社会科学を中心とした電子ジャーナルや電子ブック、データベースの充実、情報リテラシープログラム等の展開を図り、本学の研究教育を支援している。

また、一橋大学機関リポジトリ(HERMES-IR)、ウェブサイトや展示等により、本学の研究成果や知的・文化的資産である図書館資料を国内外に発信するとともに、他大学図書館等との連携強化によりサービスの向上を目指している。

### 1.1 一橋大学附属図書館の機能

研究支援	世界的研究に資する社会科学に関する総合的資料の収集に努める。 一橋大学機関リポジトリにより本学教員の業績とその一次コンテンツへのアクセス利便性を向上させる。
教育・学修支援	学生の情報リテラシー能力向上を支援し、電子的資料や情報機器を活用した学修環境整備を進める。
社会貢献	本学が所蔵する貴重なコレクションを電子化することにより、国内外へ広く公開する。また、展示を行うことにより、学内関係者にとどまらず、地域住民等へ公開する。

### 1.2 一橋大学附属図書館の特色

#### (1) 中央図書館制度

中核となる図書館に資料を集中配置する仕組みで、当館にはこの制度により、社会科学系の研究総合大学としての研究教育活動に沿った資料が体系的、網羅的に収蔵されてきた。これにより、教員と学生の情報アクセス格差が限りなく小さくなるとともに、資源の共有、資料費の有効活用が図られている。

#### (2) 開架 140 万冊

蔵書のおおよそ 140 万冊の図書・雑誌を開架配置しており、自由に利用することができる。これにより、図書館利用者の学習・研究が迅速かつ効率的に行われる基盤が形成されている。

### (3) 電子的なサービス

社会科学系を中心とした電子ジャーナル(約 38,000 タイトル)や電子ブック(約 380,000 タイトル)、各種データベース(約 70 種)を提供している。ウェブサイトで貸出予約や図書購入申込、文献複写・現物貸借申込ができる MyLibrary サービスや、電子ジャーナル・電子ブックリストやデータベースリストを提供している。電子リソースの多くは、EZproxy(イージープロキシ)システムによりキャンパス外からもアクセスできる。

一橋大学機関リポジトリ(HERMES-IR)は、一橋大学の研究成果や多様なコンテンツを収集し、積極的に発信することを目指している。

館内には、利用者が快適・安全に利用できる PC(48 台)を設置している。また、学内利用者は、持込ノート PC などを学内無線 LAN によりキャンパスネットワークへ接続することができる。

### (4) 静謐な読書空間

現在の図書館のうち最も古い時計台棟は、昭和 5(1930)年に建てられ、平成 26(2014)年に改修工事が行われた。

大閲覧室(2 階)は内装の改修を行い明るく綺麗に生まれ変わったが、景観は当時のままに、図書館としての静謐な読書空間を提供している。

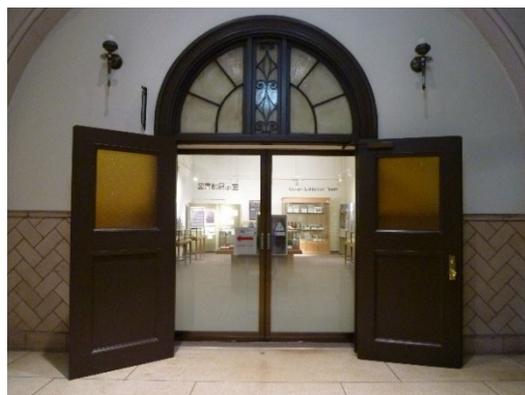


### (5) 展示

図書館展示室では、常設展示として本学の歩みと所蔵コレクションを紹介している。

毎年秋の企画展示では、普段展示できない貴重資料等を公開している。

平成 13(2001)年に整備された図書館展示室は、時計台棟改修工事に伴い内装も新しくなり、平成 27(2015)年 5 月 17 日にリニューアルオープンした。



### (6) 大学図書館としての全国的な役割

#### ○ 外国雑誌センター館

国立大学に設置された分野別外国雑誌センター館(9 館)のひとつとして、昭和 60(1985)年から、国内未収集の社会科学系の外国雑誌等を体系的に収集・整理し、国内外の研究者等を対象にサービスを提供している。

## ○ EU 情報センター(EUi)

世界に約 500 機関(日本では 18 機関)ある欧州連合情報センター(European Info=EUi)のひとつとして、平成 3(1991)年から、EU 諸機関の主要な公式出版物や資料を備えている。

## ○ コンソーシアム等組織における連携活動

国立大学図書館協会、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)などの会員館として、各組織の運営に携わっている。

## (7) 他の大学等との図書館間連携・相互協力

### ○ 国内の大学図書館等との相互利用

次の各大学・研究機関の図書館との協定により、図書館の相互利用を行っている。

機関名	内容	開始時期
東京医科歯科大学 東京科学大学 東京外国語大学	「四大学連合憲章」に基づき、入館利用(館内閲覧、文献複写)のほか、特別聴講学生には館外貸出も可とする。	平成 15(2003)年 10 月
東京学芸大学 東京農工大学 電気通信大学	東京多摩地区の国立 5 大学の間で、入館利用を可とする。	平成 15(2003)年 10 月
慶應義塾大学	入館利用および ILL による現物貸借を行う。	平成 16(2004)年 6 月
早稲田大学	入館利用および ILL による現物貸借を行う。	平成 16(2004)年 6 月
上智大学	ILL による所蔵資料の現物貸借を行う。	平成 16(2004)年 6 月
アジア経済研究所	ILL による所蔵資料の現物貸借を行う。	平成 21(2009)年 10 月
国際基督教大学	入館利用および ILL による現物貸借を行う。	平成 23(2011)年 4 月
津田塾大学	入館利用および ILL による現物貸借を行う。	平成 23(2011)年 7 月
アジア経済研究所	入館利用および個人貸出を可とする。	平成 26(2014)年 1 月

### ○ 海外の大学図書館との交流

平成 24(2012)年から中国人民大学図書館と交流協定を結び、図書館の相互利用などの交流を行っている。

## (8) 情報リテラシー教育支援

図書館の利用案内や、文献の検索・入手等の方法、データベースの利用法などのガイドンスを開催している。

## 2. 令和6年度の活動状況

### 2.1 主なトピックス

#### (1) オープンアクセス加速化の取組み

文部科学省から公募のあった「オープンアクセス加速化事業」に採択され、基盤整備(JAIRO Cloud へのデータ移行)と直接支援を実施し、本学におけるOA推進を加速することができた。

直接支援としての転換契約については、令和5年度に締結した Elsevier 社及び Springer Nature 社の2社に続いて、新たに Taylor&Francis 社との転換契約を締結し、本学教員の論文がオープンアクセスとして出版される支援を拡大させた。

また、令和5年度に制定した「転換契約に係るオープンアクセス支援制度実施要領」に関し、この制度を利用しオープンアクセスで出版した教員に対し聞き取り調査を行い、その内容を世界的なイベントである Open Access Week 2024 に合わせ、当館広報誌 BELL(No.254 10/21 発行)に掲載した。

**「発展途上国の研究者など多様な研究者層にも研究成果が届きやすくなる」**

加納 隆 教授

Q: 今般OAにした論文はもともOA出版の予定でしたでしょうか？それともAPC支援制度があったから、OA出版したのでしょうか？

もともとOA出版する予定ではありませんでした。というのもOAの効果がまだよく見えていないからです。現在進行中の研究に関しては、プレプリントサーバー、ワーキングペーパー、国内外の学会などで発表することで、研究コミュニティに広まっています。特に経済学の分野では、研究論文がジャーナルにアクセプトされるまでの期間が比較的長いので、出版された時点では、もう別の研究を始めていたりします。このように、研究と出版の間の隔差が大きいので、最終的な査読論文をOA出版することの真のメリットは何か考えています。

OA出版されると世界のどこからでも誰でもアクセスできるようになるので、発展途上国の研究者など多様な研究者層にも研究成果が届きやすくなり、論文認知が高まり引用が増えるということはあると思います。また以前と比べると、読者としてもOA論文はかなり増えていますというところを実感しているので、今般OA支援制度で、OA出版の機会が増えられることは研究者としてありがたいし、支援制度が拡大していくことは良いことだと考えています。

**「面識のない研究者からコメントがありました」**

Byeongwoo Kang 准教授

Q: プレプリントサーバーなどどのように使っていますか？

今回の論文は、国際データベースサーバーとSSRNに掲載しました。SSRNへの掲載は、オランダの共同研究者からの勧めがありました。面識のない欧米の研究者からコメントがありました。インパクトのある研究をしようという印象がありました。結果としては、最終的なプレプリントサーバーを読みに行くことはありません。まずは論文出版されるのを待ち、読者のために電子ジャーナルを購読します。主要なジャーナルは読者としており、図書館では主要なジャーナルは購読されていると感じています。

Q: 投稿先をどのように選んでいますか？

業界のインパクトです。今回掲載されたジャーナルは、イノベーション研究の分野ではトップジャーナルです。できれば、毎号トップジャーナルに掲載したいですが、その編集方針が内容や長さに見合ったジャーナルが選んでいます。分野特有のコンセンサスもあるし、私自身もエディターをやっているので、レビューを探るが、という点も考慮することもあります。インパクト必須しもインパクトファクターと連動するわけではないので、インパクトファクターを参考にしないことも多々あります。

Q: 手続きで悩んだと思った点は？

なかったです。フックアップで簡単でした。

Q: サイト上に「あなたのお見聞は即時を認めているので無料でOAにできます」と出てきたので、クリック詐欺のような怪しい印象を受けましたが(笑)

#### (2) ネーミングライツ事業の開始

時計台棟1階の「時計台棟コモンズ」が、本学が実施するネーミングライツ事業により、「東京商工リサーチ コモンズ(TSR COMMONS)」と命名された(期間: 令和6年12月1日~令和9年11月30日)。本学初のネーミングライツ・パートナー契約となり、12月19日には、開設記念式典が開催された。



#### (3) 図書館ヘルプデスクにおける留学生ピアサポートを実施

留学生に対する図書館サービス拡充のため、令和5年度に引き続き令和6年度も「留学生ヘルプデスク」を設置した。4月及び9月~12月に、本学留学生を週2回各日4時間ずつ配置した。留学生向けの図書館サービス案内や質問対応等を行う傍ら、留学生サービスにつながるガイドやショート動画の作成、館内掲示、申込書式、Webサイト等の英訳、英文校正等の業務を行った。

#### (4) オスナブリュック大学との職員派遣研修プログラムによる研修生の受入

令和6年11月、本学とオスナブリュック大学との職員派遣研修プログラムによる研修生が初めて来学し、11月20日には附属図書館にて研修を実施した。附属図書館内の見学や業務説明の他、相互の大学図書館の特徴について情報交換を行った。



#### (5) 「東京地区 Open Library」一橋大学附属図書館・古典資料センター見学会の実施

国立大学図書館協会東京地区協会（14機関）にて令和5年度より実施している、「東京地区 Open Library」の一環にて、本学にて12月6日実施。他機関からの参加者9名。附属図書館のみならず、社会科学古典資料センターにて、貴重資料の修復・保存の現場を見学コースに入れたのが好評であった。



#### (6) 読売新聞「知の館—大学図書館を巡る」に当館記事が掲載される

読売新聞社がユニークな大学図書館を紹介している連載企画「知の館」（毎月1回・朝刊）にて、一橋大学附属図書館が取材を受けた。図書館利用者や学長・附属図書館長等へのインタビューをもとに、令和7年3月27日読売新聞朝刊18面全面に、時計台棟の美しい夜景の写真とともに、当館の記事が掲載された。※当該記事は「読売新聞オンライン」でも公開されている（<https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/20250326-OYT8T50037/>）

## 2.2 年間活動記録

### (1) 情報リテラシー教育関連

初めて図書館を利用する学部学生や大学院生に、基本的な資料・情報の検索・入手方法を案内する一方で、論文・答案作成につながる実践的なスキルについても取り上げ、学修の機会を提供した。実施に先立っては、各ガイダンスで習得可能なスキル一覧を公開する一方で、実際の活用場面について教員からのコメントを案内し、参加者の目的意識を高めた。基本的にはオンライン実施での開催としたが、一部を集合形式の対面実施とし、参加者の反応や感想を直接得られる機会となった。

#### ① 図書館主催講習会

開催日	内容	開催回数	参加人数
3月27日(水)以降	<b>図書館ガイダンス</b> 資料の探し方、図書館サービスについての動画やスライド資料とともに、利用者自身で館内を回り、利用方法や資料配架場所、設備等について学べるセルフツアーガイド(館内施設案内)を Google Classroom にて提供した。	—	51
4月(各授業による)	<b>リサーチ・スキルズ</b> 大学での学修に必要な文献検索と入手のスキル習得を目的とし、附属図書館職員が、学部1年次の社会学部全導入ゼミと商学部の一部導入ゼミ内で実施した講習会。ライブ配信による《講義編》と検索・資料借用の実習を行う《館内実習編》の2部構成とした。他学部生も、個別にオンデマンド方式にて《講義編》の録画や資料が閲覧できるように学内公開した。また、法学部1年生には、必修授業内で広報するとともに国内法律情報データベースの利用方法も追加し、提供した。	9	《講義編》 462 《館内実習編》274
4月23日(火)、 6月5日(水)、 6月12日(水)	<b>データベースガイダンス</b> Web of Science / EndNote, ProQuest ニュース&新聞 / ProQuest Ebook Central, APA PsycArticles の提供元が講師として、ライブ配信でデータベースの活用方法を解説した。	3	85
5月15日(水)	<b>レポートの書き方ワークショップ</b> 大学におけるレポートの書き方についての初歩的な知識とスキル習得を目的とし、アクティブに参加できるようグループワークによる意見交換を交え、講義をライブ配信した。	1	39
6月26日(水)～ 7月10日(水)	<b>ワークショップ:法学科目(民法)の答案を書くために</b> 法学科目の答案作成のための主に法学部1-2年生向けワークショップ。Google Classroom にて、講義(録画)、個人ワーク用の各種ファイル、アンケートに寄せられた質問から作成したQ&Aを掲載した。法学研究科と共催。	1	99
7月3日(水)、 10月9日(水)、	<b>国際ジャーナル論文投稿セミナーシリーズ 第3回「編集者の視点から:トップジャーナルを目指</b>	3	99

2月20日(木)	<p>「論文作成」</p> <p>第4回「リジェクトされない?! 論文投稿戦略:出版社の視点から」</p> <p>第5回「トップジャーナルを目指すことのできる幸運」</p> <p>教員による国際的なジャーナルへの論文投稿支援策の一環として、ジャーナル編集者や査読者、論文の著者等を招聘して実施するセミナーの3回を、研究IR室と共催で実施した。</p>		
10月2日(水)	<p>論文投稿講座</p> <p>Web of Science を提供するクラリベイト・アナリティクス・ジャパンの講師から、アクセプトされる論文を書くために重要な研究の進め方について、英語論文を例に紹介した。</p>	1	43
11月6日(水)～ 11月27日(水)	<p>ワークショップ:法学科目(憲法)の答案を書くために</p> <p>法学科目の答案作成のための主に法学部1-2年生向けワークショップ。Google Classroomにて、講義(録画)、個人ワーク用の各種ファイル、アンケートに寄せられた質問から作成したQ&amp;Aを掲載した。法学研究科と共催。</p>	1	60
12月4日(水)	<p>就活生向け:データベースガイダンス</p> <p>就職活動中の学生を対象に、企業研究や業界研究のための情報を入手できるデータベースについて、就活生向けの情報入手に特化した利用方法を案内するガイダンスを実施し、録画を学内限定公開した。キャリア支援室と共催。</p>	1	3
	合計	20回	941人

講習会のポスター

## ② オンデマンド・ガイダンス

教員からの依頼により、資料の探し方、データベースの使い方など、要望に合わせた内容で図書館職員が学生に解説する。

研究科等	実施回数	参加人数 (概数)
経営管理研究科・商学部	1	24
経済学研究科・経済学部	2	26
法学研究科・法学部	2	48
社会学研究科・社会学部	2	27
言語社会研究科	1	9
経済研究所	1	30
国際・公共政策大学院	2	44
国際教育交流センター	1	9
合計	12回	217人

**オンデマンドガイダンス コンテンツ一覧**

1～2年生のうちから、ちゃんと本学論文を調べてレポートを書いてほしい！

- 図書・雑誌を探す
- 論文を探す
- 英語論文や新聞記事も使いこなしてほしい！
- 卒業論文の準備や大学教員まで専門分野の情報を活用してほしい！

まずはここから！

- 図書館を利用する
- 図書館Webサービス活用

もっと詳しく！

- 新着記事を探す
- 英語論文の検索と入手
- 卒業論文の準備や大学教員まで専門分野の情報を活用してほしい！
- さらに専門的に！

お申込みは図書館Webフォームから \*サンプルスライドも掲載しています  
<https://www.lib.hit-u.ac.jp/retrieval/seminar/on-demand/>

## (2) 展示

### ① 図書館展示室

例年 11 月の大学祭(一橋祭)の時期にあわせて、企画展示を開催している。常設展示として、渋沢栄一と、本学の源流である商法講習所の設立から現在の一橋大学までの関わりを紹介する「渋沢栄一と一橋大学」に加え、当館の所蔵するコレクションを紹介している。

11月22日(金)～ 2025年3月11日(火)	令和6年度企画展示「学者の肖像 学者の風景 II : 三浦新七・山口茂・小泉明」
-----------------------------	---



(上) 展示の様子

**学者の肖像 学者の風景 II**

三浦新七  
山口茂  
小泉明 展

令和6年度 一橋大学附属図書館 企画展示

【前期】\*再展覧を要します  
2024年 11月22日(金) - 12月6日(金) / 12月18日(日)は閉室  
開室時間 12:00 - 17:00  
休室日 11月23日(土) - 11月24日(日) 12月7日(土) - 12月8日(日) 12月9日(月) - 12月10日(火) 12月11日(水) 12月12日(木) 12月13日(金) 12月14日(土) 12月15日(日) 12月16日(月) 12月17日(火) 12月19日(水) 12月20日(木) 12月21日(金) 12月22日(土) 12月23日(日) 12月24日(月) 12月25日(火) 12月26日(水) 12月27日(木) 12月28日(金) 12月29日(土) 12月30日(日) 12月31日(月)

【後期】2024年 12月10日(火) - 26日(木)  
開室時間 10:00 - 17:00 / 土曜日・日曜日・国書館休館日は閉室

会場 一橋大学附属図書館展示室 (西キャンパス時計台横1階)  
Webサイト <https://www.lib.hit-u.ac.jp/about/using/lib/hib/hibex2024/>  
一橋大学附属図書館 〒186-8602 東京都国立市中央-1  
TEL: 042-586-8580 E-MAIL: lib@lib.hit-u.ac.jp

(右) 令和6年度特別展示ポスター

## ② 読書案内小展示(Yomocca コーナー)

4月2日(火)	～	2025年3月31日(月)	アカデミックスキルズ 2024
12月3日(火)	～	2025年6月30日(月)	75 Books on DEI —Diversity(多様性)、Equity(公正性)、Inclusion(包摂性)を知る75冊—

## ③ その他館内



7月2日(火)～ 8月19日(月)

令和6年度日・EUフレンドシップウィーク展示「EU諸国留学レポート」(Yomocca コーナー)

## (3) 行事

①	8月3日(土)・4日(日)・5(月)	オープンキャンパス 図書館見学
②	10月21日(月)～23日(水)	第41回西洋社会科学古典資料講習会(社会科学古典資料センター)
③	11月20日(水)	一橋大学・オスナブリュック大学(ドイツ)との職員派遣研修プログラムによる研修生図書館へ受入
④	11月22日(金)・23日(土), 12月5日(木)・6日(金)	令和6年度蔵書点検(三浦文庫(漢籍)・中国・韓国書, 小平研究保存図書館)
⑤	11月30日(土)	ホームcomingデー 図書館見学, ご自身の卒論閲覧
⑥	12月6日(金)	国立大学図書館協会「東京地区 Open Library」一橋大学附属図書館・古典資料センター見学会

#### (4) 館内ワーキング・グループ、プロジェクトチーム活動

情報リテラシー教育ワーキング・グループ(通年)	主体的な学修活動促進のために、ガイダンス等を通じて、情報リテラシー教育を支援する。
図書館利活用ワーキング・グループ(通年)	ブックトーク、高本小展示等の学生向け読書推進活動を行う。
企画展示ワーキング・グループ	図書館展示室で開催する展示について、計画・実施する。
図書館業務システム定例会(通年)	図書館業務システムの運用課題に取り組む。
図書館情報システム更新プロジェクトチーム	令和7年度の図書館システム更新に向けて、システムベンダーとの協議に臨むとともに、発生する実作業にあたる。
次期図書館業務システム仕様策定委員会(令和7年3月～)	令和7年度に更新を予定している図書館業務システムの仕様内容を策定する。

#### (5) 館内勉強会・報告会等

①	9月12日(木),3月27日(木)・28日(金)	学内資料保存講習・実習(情報サービス係(貴重資料担当)・炭田)
---	--------------------------	---------------------------------

#### (6) 広報紙 BELL の発行

『BELL』は、附属図書館の活動・サービスをアピールするための広報紙である。令和6年度は17号を刊行した。印刷版を館内2カ所で配布しているほか、電子版を機関リポジトリ HERMES-IR で公開している。



No.245	2024/4/2	《新入生のみなさんへ》春の図書館ガイダンスのご案内 4/11(木)より館内にシステム利用相談の窓口ができます(春学期から授業期に常駐するシステム利用相談員のご案内) 留学生ヘルプデスク対応期間のご案内(2024年度春の留学生ヘルプデスクについてのお知らせ)
--------	----------	--

No.246	2024/4/2	一橋大学は研究成果のオープンアクセスを支援します(転換契約による OA 支援制度の紹介) 新規電子リソース紹介(Cambridge 電子ブック、J-DAC、Springer 電子ブック、Wiley 百科事典)
No.247	2024/4/16	データベースガイダンス レポートの書き方ワークショップのご案内
No.248	2024/5/28	教員の皆さまからの図書の購入依頼を受け付けます(教員選定図書について) JSTOR Archival Journals & Primary Sources Collection(フルアクセス・モデル)導入のお知らせ 新規データベース導入のお知らせ(Handbook of statistics/Advances in Experimental Social Psychology の導入)
No.249	2024/6/25	「ワークショップ:法学科目(民法)の答案を書くために」のご案内 夏休み長期貸出のお知らせ 図書館内の電源コンセント位置のご案内
No.250	2024/6/25	2024 年度一橋大学附属図書館 日・EU フレンドシップウィーク展示「EU 諸国留学レポート」 国際ジャーナル論文投稿セミナーのご案内
No.251	2024/7/23	新規電子リソース紹介(Oxford University Press 電子ブック/Gale のレファレンスブック)
No.252	2024/9/24	論文投稿講座開催のお知らせ 国際ジャーナル論文投稿セミナーシリーズ第 4 回開催のお知らせ
No.253	2024/10/1	図書館長就任によせて 傘寿記念基金文庫に新しい本が追加されました 留学生ヘルプデスクのご案内(2024 年度秋冬学期) データベース等のトライアルについて
No.254	2024/10/21	Open Access Week 2024
No.255	2024/10/21	「ワークショップ:法学科目(憲法)の答案を書くために」のご案内 電子リソーストライアルのお知らせ 図書館の本を延滞すると・・・
No.256	2024/11/19	企画展示「学者の肖像・学者の風景 II」を開催します 「就活生向けデータベースガイダンス」開催のご案内

No.257	2024/11/19	図書館の近況トピックス ご支援のお願い
No.258	2024/12/10	Yomocca 展示「75 Books on DEI —Diversity、Equity、 Inclusion を知る 75 冊—」 冬季長期貸出のお知らせ 西洋社会科学古典資料講習会を開催しました 新規データベーストライアルのお知らせ
No.259	2025/1/28	2025 年 1 月からの転換契約によるオープンアクセス支援について ヘルプデスク受付時間の変更のお知らせ 春休み長期貸出のお知らせ
No.260	2025/2/4	授業用図書ご購入申込を受け付けています 著書ご寄贈のお願い 電子リソース最新情報 時計台棟コモンズ、「東京商工リサーチ コモンズ」へ
No.261	2025/3/4	2025 年 3 月に卒業・修了・離籍される皆様へ 2025 年 4 月以降も在籍される皆様へ オライリーの接続方法が変わりました ノーベル文学賞作家ハン・ガンの作品が入りました

### 3. 統 計

#### 3.1 所蔵資料状況

##### (1) 所蔵資料数

令和 7(2025)3 月 31 日現在

資料区分		内訳		合計
図書(冊)	和		1,142,206	2,099,588
	洋		957,382	
雑誌(種類)	和		7,051	17, 180
	洋		10,129	
電 子 的 資 料	電子ブック(タイトル)	和	2,996	45,166
		洋	42,170	
	電子ジャーナル(種類)	出版社	9,717	37,842
		その他	28,125	
	データベース(種類)	国内	20	75
		国外	55	

※図書・雑誌の「和」は中国語, 韓国語を含む

##### (2) 年間受入資料数

資料区分	令和 6(2024)年度		参考:令和 5(2023)年度	
図書(冊)	和	7,335	和	9,114
	洋	2,926	洋	2,441
	計	10,261	計	11,555
雑誌(種類)	和	997	和	1,041
	洋	610	洋	663
	計	1,607	計	1,704

※図書・雑誌の「和」は中国語, 韓国語を含む

※「雑誌」には, 個別契約の電子ジャーナルを含む

##### (3) 図書館資料費(専門図書費等・決算)

	令和 6(2024)年度	参考:令和 5(2023)年度
専門図書費等	315,181 千円	334,936 千円

※他部局からの振替執行分を含む

### 3.2 利用状況

#### (1) 開館日数と入館者数

	令和 6(2024)年度		参考:令和 5(2023)年度	
開館日数	340		338	
入館者数	平日	168,293	平日	170,248
	休日	25,475	休日	23,809
	計	193,768	計	194,057

#### (2) 館外貸出冊数

	令和 6(2024)年度		参考:令和 5(2023)年度	
館外貸出冊数	学生	72,374	学生	75,350
	教職員	9,505	教職員	8,807
	学外者	918	学外者	706
	計	82,797	計	84,863

#### (3) 図書館相互協力

	令和 6(2024)年度		参考:令和 5(2023)年度	
文献複写:受付 (件数)	国内・大学図書館	1,577	国内・大学図書館	1,622
	国内・その他	86	国内・その他	115
	国外	1	国外	2
	計	1,664	計	1,739
文献複写:依頼 (件数)	国内・大学図書館	739	国内・大学図書館	592
	国内・その他	46	国内・その他	237
	国外	2	国外	1
	計	787	計	830
現物貸借:受付 (冊数)	国内・大学図書館	660	国内・大学図書館	541
	国内・その他	14	国内・その他	8
	国外	0	国外	0
	計	674	計	549
現物貸借:依頼 (冊数)	国内・大学図書館	485	国内・大学図書館	551
	国内・その他	26	国内・その他	30
	国外	1	国外	0
	計	512	計	581

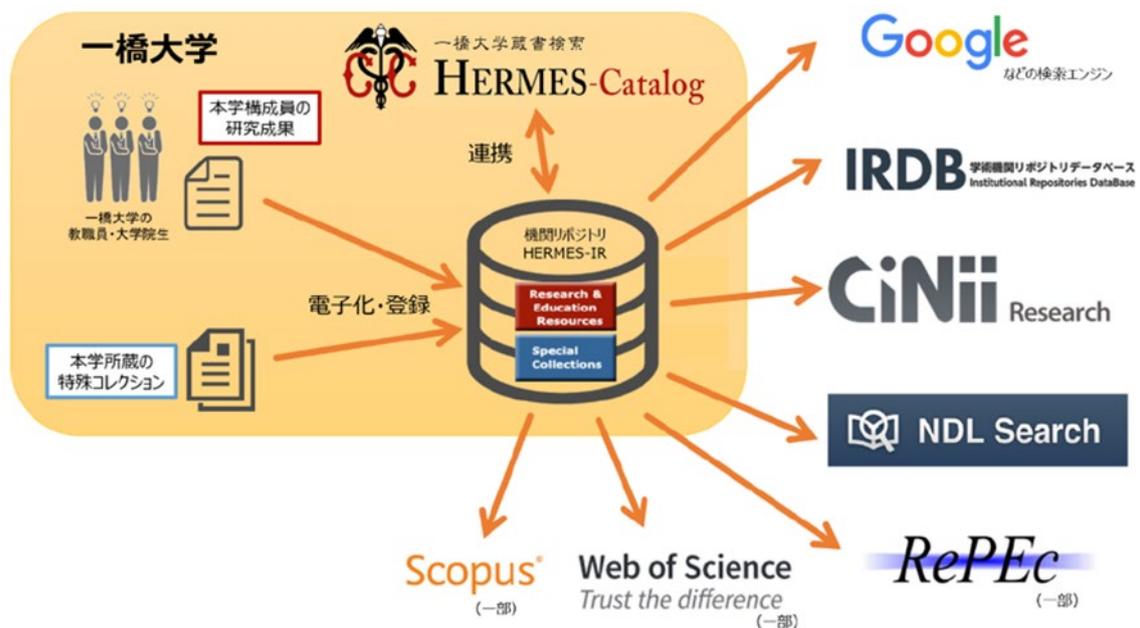
## 4. 機関リポジトリ

### 4.1 一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”の概要

本学の研究・教育活動の成果をインターネットで広く世界に発信するため、平成19(2007)年5月から一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”を公開している。

機関リポジトリとは、機関(大学)で生産された研究成果の全文を電子的に保存し、発信するインターネット上の集積庫のことである。

HERMES-IR は附属図書館長を統括責任者とし、学術情報課が運営を支援している。また、国立情報学研究所をはじめとする他機関と協力して、学術情報の流通を促進する機能を果たしている。



#### (1) Research & Education Resources

一橋大学の研究・教育活動の成果を電子媒体で収集・保存し、インターネット上で全文データを発信している。外部のデータベースがメタデータ(著者名, 論題, 雑誌名など)をハーベスト(プログラマ的なメタデータの収集)することにより、学外のサイトでも HERMES-IR に登録されたデータが検索されるようになっている。

#### (2) Special Collections

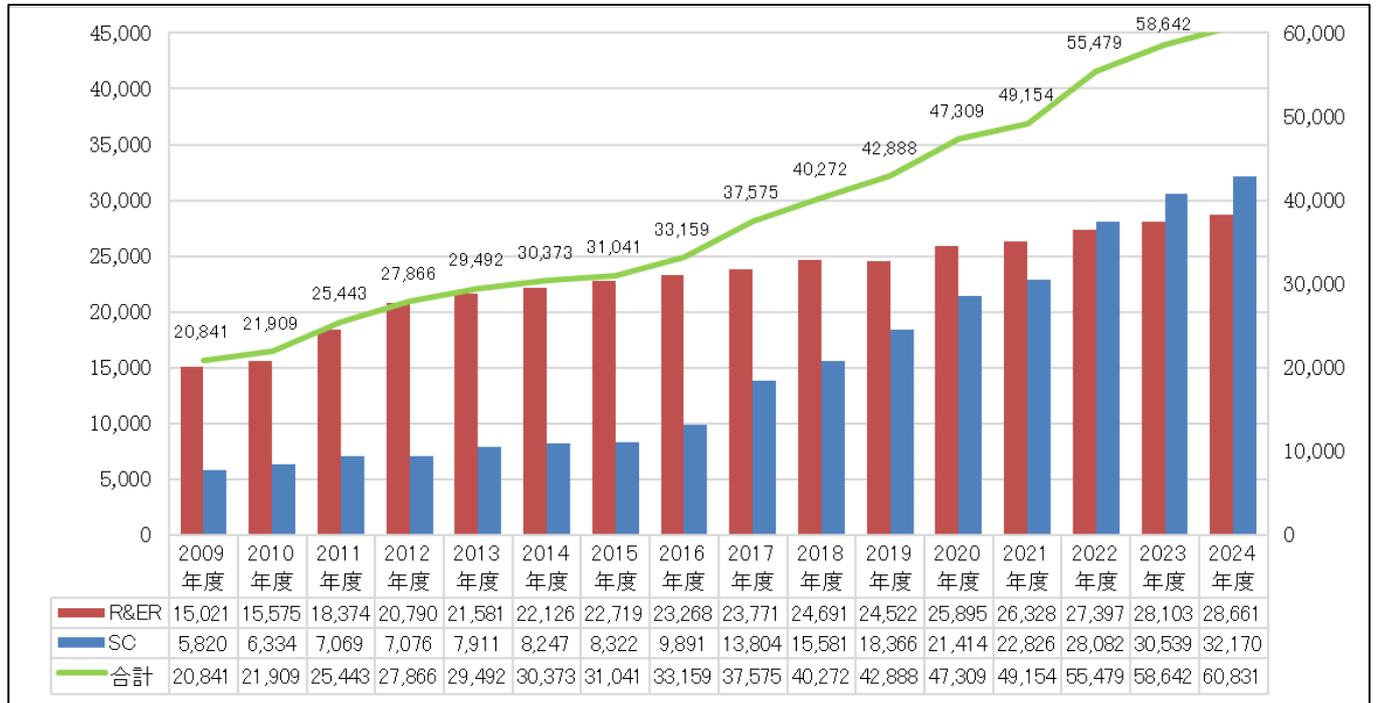
本学が所蔵する特殊コレクションを電子画像化し、インターネット上で発信している。社会科学史上、貴重な古典籍や数々の原史料(写真, 図譜類, 文書類, 手稿類, 博物資料等)を電子化することにより、資料保存と公開利用のバランスを図っている。また、学園史関係資料のアーカイブとしての役割も担っている。

## 4.2 統計

■ R&ER : Research & Education Resources

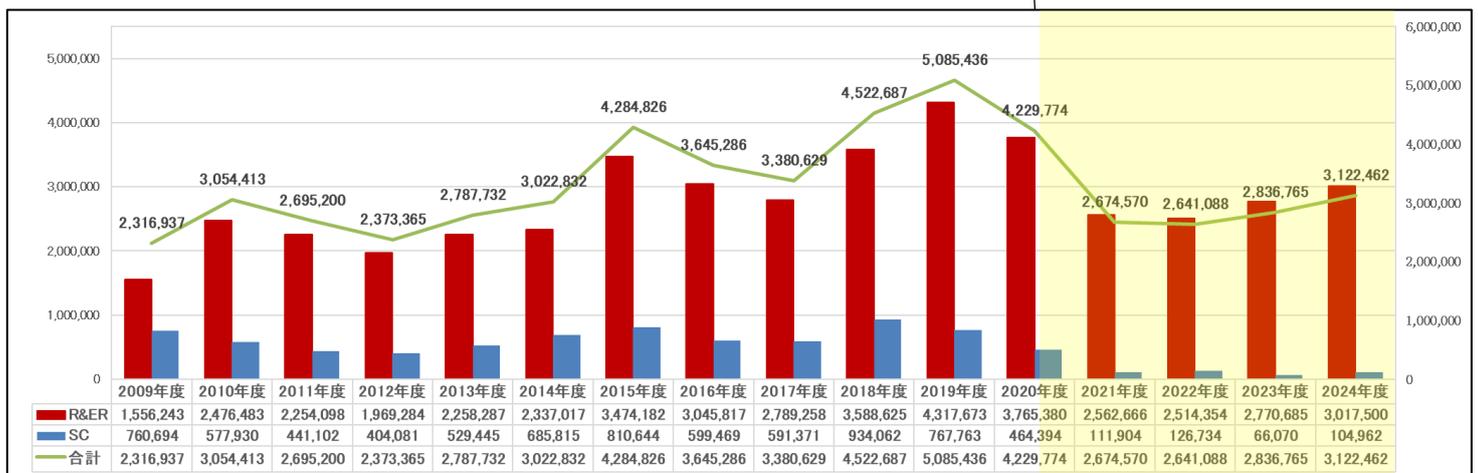
■ SC : Special Collections

### (1) コンテンツ累計登録数〔件〕



### (2) 本文閲覧数〔ページビュー〕

2020年9月  
システムリプレイス  
(集計方法変更)

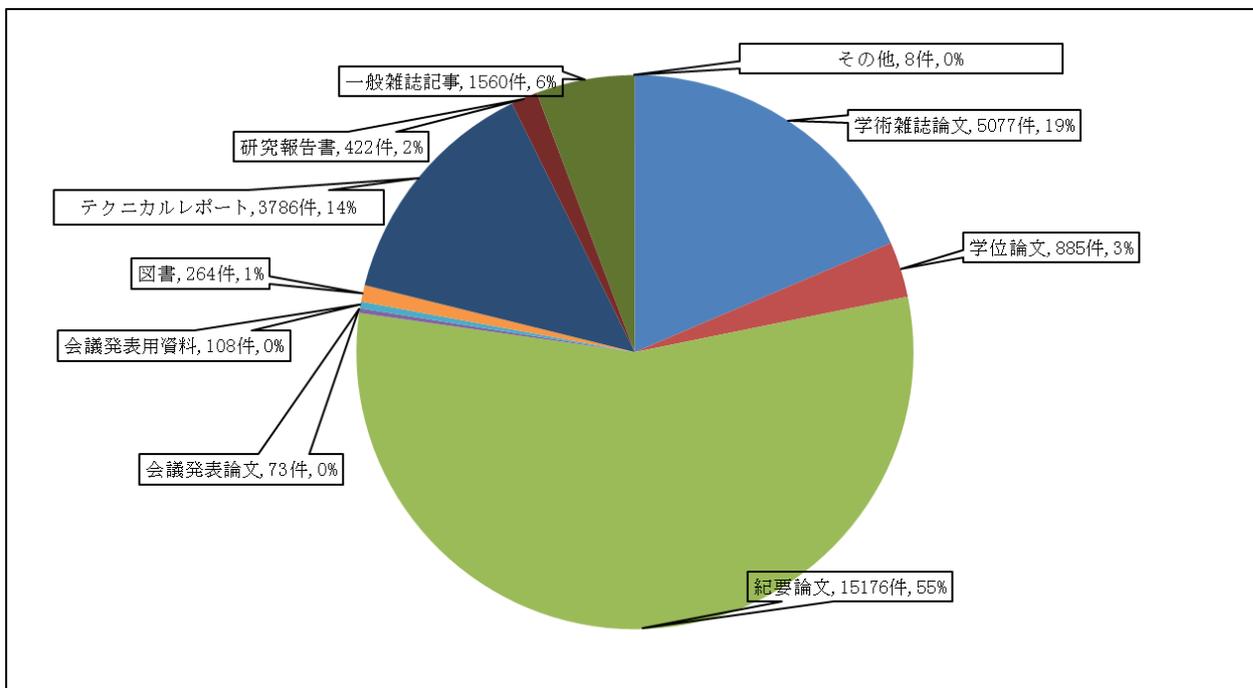


※2020年9月のシステムリプレイスにより、集計方法に変更が生じた。

### 4.3 Research & Education Resources

#### (1) 登録コンテンツ内訳

令和 7(2025)年 3 月 31 日現在



#### (2) 外部データベース等との連携

HERMES-IR は、外部データベース等と以下のように連携を行うことで、視認度や利便性の向上を図っている。

- サーチエンジン (Google 等) からの検索・リンク
- 日本の機関リポジトリ・ポータル“IRDB”からの検索・リンク
- 「一橋大学研究者情報」(HRI : Hitotsubashi Researchers Information) データベースとの相互リンク
- 分野別リポジトリやデータベースとの連携 (書誌情報やコンテンツ提供)
  - ・ RePEc : Research Papers in Economics (経済学分野の世界的な主題リポジトリ)
  - ・ EBSCOhost (EBSCO 社が提供する、世界的・学際的な学術文献データベース)

#### (3) デジタル識別子 (DOI) の付与

機関リポジトリ登録コンテンツの利用促進および検索環境の向上を図るため、平成 28(2016)年度より、本学紀要論文、博士論文 (平成 25(2013)年度以降学位授与分) を対象として、ジャパンリンクセンター (JaLC) の DOI (Digital Object Identifier) の付与を実施している。また、令和元年度には、本学学園史資料のうち雑誌や図書資料を DOI 付与の対象に加えた。

#### (4) オープンサイエンスの推進

本学の研究力を広く世界に発信し、学際的な研究やイノベーションの創出を促し、その成果を社会に還元するため、平成 29(2017)年 10 月に「一橋大学オープンアクセス方針」を策定し、平成 30(2018)年 4 月 1 日より実施している。また、令和 5(2023)年 3 月には、「国立大学法人一橋大学研究データ管理・公開ポリシー」が策定・公開された。

#### 4.4 Special Collections

令和 2(2020)年に導入した新しい機関リポジトリシステムが有する表示機能を活用して、国際的な画像共有の枠組みである IIIF (International Image Interoperability Framework) に対応した画像公開を行っている。

##### 近代日本経済史・経営史デジタルアーカイブ

- ・修学旅行等報告書
- ・商品陳列所旧蔵報告書
- ・農商務省調査資料
- ・商業慣習調査資料
- ・西川孝治郎文庫
- ・札差関係資料
- ・大伝馬町長谷川木綿店古帳
- ・日本郵船株式会社社会計帳簿類
- ・第三回内国勸業博覧会出品解説書
- ・江戸期商業関係資料
- ・明治期商業関係資料

##### 近現代日本の専門職業人養成教育資料データベース

本学の講義ノート、受講ノート、教材等の教育・研究資料のコレクション

##### 研究者手稿類デジタルアーカイブ

- ・大塚金之助(1892-1977)
- ・左右田喜一郎(1881-1927)
- ・杉村広蔵(1895-1948)
- ・福田徳三(1874-1930)
- ・古川栄一(1904-1985)
- ・三浦新七(1877-1947)
- ・藻利重隆(1911-2000)

##### 学園史関係資料

一橋大学にゆかりのある資料(関係図書、論文・記事、講演等発表資料ほか)

##### 社会科学古典資料センター所蔵資料

- ・社会科学古典資料センター所蔵インキュナブラ
- ・フランクリン文庫
- ・メンガー文庫
- ・良知文庫 1848 年ウィーン革命関係資料
- ・その他貴重書

##### 附属図書館所在肖像画等コレクション

一橋大学附属図書館に所在する肖像画、銅像、レリーフ等のコレクション

##### 井藤半彌旧蔵ドイツ紙幣等コレクション

一橋大学元学長 井藤半彌(1894-1974)が、ベルリン留学中(大正 11(1922)年 11 月-大

正 14(1925)年 3 月)に収集した、インフレ期(1922-23)のドイツ紙幣, 緊急通貨(Notgeld), また、それとほぼ同時期に中国大陸で使用された法幣, 軍票のコレクション

#### 奎星帖

明治年間の広告を中心に, 記事の切り抜き・肖像写真・領収書・名刺・封筒・はがき・番付・本の題簽や見返し・短冊・扇面図・江戸時代の文書の断簡等雑多なものを貼り込んだスクラップブック。山寺清二郎が製作

#### 戦前期アジア諸国写真コレクション

陸軍経理学校が研究のために収集した, 昭和初期から第二次世界大戦期にかけてのアジア・太平洋諸地域の風俗・風景・民族・産業等の 3,705 枚の写真コレクション

#### 幸田文庫

文豪幸田露伴の弟で, 1922-1940 の間, 本学で日本経済史を担当した幸田成友博士(1873-1954)が蒐集した「幸田文庫」の一部。武鑑類の和装本が大半を占める

#### 都留重人名誉教授寄贈資料

一橋大学元学長, 一橋大学経済研究所元所長 都留重人が私蔵していた手稿, 書簡, 写真を含む私文書などのコレクション

#### 日本・旧満州鉄鋼業資料(水津利輔氏旧蔵資料)

昭和製鋼所の拡充を中心とする満州鉄鋼業の建設およびその動因となった「日満支」の範囲での鉄鋼増産計画の立案に関する資料

#### 剣友会資料(一橋大学剣道部 OB 会資料)

一橋大学剣道部(明治 34(1901)年 5 月創部)の初代師範である, 鹿島神傳直心影流正統 15 代一徳齋山田次朗吉先生の著書および関連資料

#### 美濃部洋次満州関係文書

満州国官僚であった美濃部洋次が入手した満洲国初期の政策立案に係わる資料群

## 5. 利用案内

### 5.1 開館時間・各種サービスの利用時間

	平日(月～金)		土・日・祝	
	授業期	休業期	授業期	休業期
図書館本館	8:40～22:00	8:40～19:00	9:30～20:00	9:30～19:00
雑誌棟	8:40～21:30	8:40～18:30	9:30～19:30	9:30～18:30
大閲覧室	8:40～21:30	8:40～18:30	—	
時計台棟コモンズ [東京商工リサーチ コモンズ]	8:40～20:00	8:40～17:00	—	
名誉教授閲覧室	8:40～21:30	8:40～18:30	—	
書庫	(入庫)	9:00～16:30		—
	(出納)	9:00～16:45 (注)		
貴重資料利用	9:00～17:00	9:00～12:00, 13:00～17:00	—	
マイクロ資料利用	9:00～17:00 (受付:～16:00)	9:00～12:00, 13:00～17:00 (受付:～16:00)	—	
ヘルプデスク	9:30～16:30	9:30～12:00, 13:00～16:30	—	
文献複写・現物貸 借資料の受取・返 却(現金決済はヘル プデスクのみ対応)	9:00～22:00	9:00～19:00	9:30～20:00	9:30～19:00
利用証発行	8:40～17:00		—	

(注) 事前申込により平日夜間, 土日祝日も書庫資料の利用が可能

## 5.2 利用の範囲

利用者区分	利用証有効期間	閉架書庫 入庫	館外貸出
学部学生	在学期間	×	○
大学院学生	在学期間	○	○
教職員	在職期間	○	○
名誉教授	終身	○	○
元専任教員	交付日から1年間(更新可)	○	○
受入研究員	在籍期間	○	○
学部卒業生	交付日から1年間(更新可)	×	×
大学院修了または単位修得後 退学者	修了または退学後5年間	○	○
大学院修了または単位修得後 退学5年以上	交付日から1年間(更新可)	×	×
他機関の研究者(館長許可)	交付日から1年間(更新可)	○	○
大学功労者	終身	×	○
学外者	当日限定	×	×

## 5.3 館外貸出冊数・貸出期間

利用者区分	貸出 冊数	貸出期間		
		学習用図書	一般図書	製本雑誌
学部学生	10冊	2週間	2週間	1週間
大学院学生	30冊	2週間	2か月	1週間
教職員	70冊	2週間	年度末まで	1週間
名誉教授	70冊	2週間	年度末まで	1週間
元専任教員	10冊	×	1か月	1週間
受入研究員	30冊	2週間	2か月	1週間
大学院修了または単位修得後 退学5年以内	10冊	×	1か月	1週間
他機関の研究者(館長許可)	10冊	×	1か月	1週間
大学功労者	10冊	×	1か月	1週間

## 6. 施 設

### 6.1 建物

附属図書館施設は国立・西キャンパスおよび小平キャンパスにあり、昭和 5(1930)年竣工以来の様々な建物で構成されている。

#### (1) 時計台棟

- ・昭和 5(1930)年竣工
- ・昭和 60(1985)年, 平成 12(2000)年改修, 平成 27(2015)年耐震改修竣工
- ・地上 2 階地下 1 階, 時計台
- ・図書館使用部分床面積 1,931 m<sup>2</sup>\*\*

※ 時計台棟には, 図書館施設のほか, 教員研究室も配置されている。

昭和 5(1930)年, 本学の前身である東京商科大学の谷保村(現・国立市)移転と共に建設された。西キャンパスの中心に位置し, 時計台と 2 階大閲覧室は, 今日においても一橋大学のシンボリック的存在である。1 階は主に展示や研修のためのスペースにあてられている。

平成 24(2012)年に時計台棟コモンズ(令和 6 年度ネーミングライツ事業による別称「東京商工リサーチ コモンズ」)を開設し, グループ学習などアクティブラーニングに対応する施設として年間 1 万人を超える多くの利用がある。

令和元年度に, 施設整備費補助金により, 大閲覧室の天井面に落下防止ネットを張る改修工事を行い, 大規模地震への安全対策が強化された。

2階	大閲覧室
1階	エントランスホール, 附属図書館会議室, 時計台棟コモンズ(東京商工リサーチ コモンズ), 図書館展示室, 図書館セミナールーム, 名誉教授閲覧室, 保存修復室, 学園史資料室
地階	書類保管庫



時計台棟外観



時計台棟から図書館本館入口を見る

## (2) 図書館本館

- ・平成 12(2000)年竣工
- ・地上 4 階地下 1 階, 一部 5 階
- ・延床面積 6,693 m<sup>2</sup>

旧図書館本館の出納および事務スペース(時計台棟背面部分)と当時の「第一書庫」を取り壊した跡に, 新しい図書館本館として平成 12(2000)年に竣工, 開館。

100 万冊規模の開架図書に加えて, 48 台の情報検索端末や読書スペース Yomocca が設置されている。

5階	機械室
4階	貴重資料室, マイクロ資料室, 事務室
3階	開架閲覧室
2階	開架閲覧室, グループ学習室, 大閲覧室入口, 教員著作寄贈図書コーナー
1階	カウンター(受付/貸出/返却/ヘルプデスク), 参考図書コーナー, 情報検索コーナー, 読書スペース Yomocca, 高本名著コレクション, 傘寿記念基金文庫, 書庫入口, 雑誌棟連絡通路, 事務室
地階	開架書庫, 機械室



開架書架(図書館本館2階)



読書スペース Yomocca(図書館本館1階)



情報検索コーナー(図書館本館1階)



貴重資料室(図書館本館4階)

### (3) 雑誌棟

- ・昭和 55(1980)年竣工(地上 3 階現低層部分)
- ・平成 8(1996)年増改築竣工
- ・地上 5 階地下1階
- ・延床面積 4,246 m<sup>2</sup>

閉架中心の研究図書館であった旧図書館本館に対して、学習図書館(新館(当時))として昭和 55(1980)年に開館。平成 8(1996)年の増改築後は、平成 12(2000)年の現・図書館本館開館まで、学習図書館機能を果たした。

現在は、雑誌、新聞等の逐次刊行物および統計、白書、法令資料等が集中配置されている。また、社会科学系外国雑誌センター館雑誌および EU 資料も配置されている。

5階	開架閲覧室, グループ学習室
4階	開架閲覧室
3階	開架閲覧室
2階	開架閲覧室, EU 情報センター(EUi)
1階	開架閲覧室, 新聞コーナー, 事務室, 本館連絡通路, 新着雑誌コーナー
地階	開架書庫, 機械室



新着雑誌コーナー(雑誌棟1階)

### (4) 第二書庫

- ・昭和 39(1964)年竣工
- ・平成 21(2009)年耐震改修竣工
- ・地上 4 層
- ・延床面積 846 m<sup>2</sup>



第三書庫(4階)

### (5) 第三書庫

- ・昭和 58(1983)年竣工
- ・地上 4 層地下 1 層
- ・延床面積 885 m<sup>2</sup>

書庫の出入口にはカード認証リーダを設置し、教職員および大学院生が入庫できるようになっている。学部学生等は、職員の出納により書庫の資料を利用できる。

令和元(2019)年 10 月の台風 19 号の影響により、雨量が屋上の排水能力を超え、屋上

の施錠扉の隙間から第二書庫も含めて全フロアに浸水を受けたが、被災後速やかに、屋上からの浸水防止および排水力向上のための補修や浸水防止のための改修工事が行われた。

なお、「第一書庫」は現・図書館本館新築のため平成 11(1999)年に解体されたが、「第二書庫」「第三書庫」の呼称はそのまま踏襲した。

## (6) 小平研究保存図書館

- ・平成 26(2014)年改修
- ・地上 2 層地下 1 層
- ・延床面積 2,131 m<sup>2</sup>



小平研究保存図書館

平成 26 年度国立大学法人施設設備整備費補助金(国立大学改革基盤強化促進費)により、「近現代日本経済史・経営史のためのアーカイブスの整備等」事業が採択され、書架の整備およびアーカイブスのための環境整備を行った。

## 6.2 閲覧座席数, 収容可能冊数, 床面積

令和 7(2025)年 5 月 1 日現在

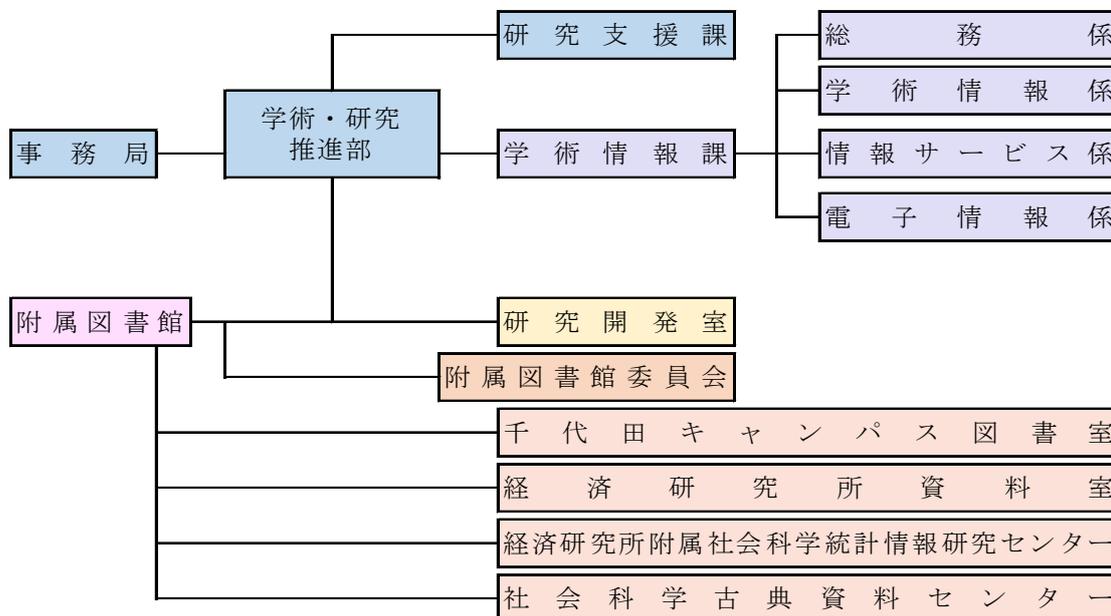
	閲覧座席数	収容可能 冊数 (千冊)	床面積 (m <sup>2</sup> )						
			延床面積	サービス用途			管理用途		その他
				閲覧	情報	その他	書庫	事務	
時計台棟	381		1,931	694		174	87	272	704
図書館本館	206	882	6,693	2,493	105	129	1,202	835	1,929
雑誌棟	213	674	4,246	2,532	3	37	455	186	1,033
第二書庫		172	846				846		
第三書庫		229	885				885		
連絡通路等			201						201
小平研究保存 図書館	24	313	2,131	43		41	1,330	123	594
合計	824	2,270	16,933	5,762	108	381	4,805	1,416	4,461

※収容可能冊数は、1 棚(90cm)25 冊で計算。

## 7. 組織

### 7.1 組織機構図

令和 7(2025)年 5 月 1 日現在



### 7.2 学術情報課職員の配置

令和 7(2025)年 5 月 1 日現在

	一般職員		契約・パート タイム職員	計	備考
	図書系	その他			
課長		1		1	
専門員		1		1	電子情報担当
専門職員	5(1)			5(1)	電子リソース担当/資料整備担当/学修・研究支援担当/貴重資料担当/電子情報係(研究支援課兼務)/学術情報統括担当
総務係		1	1	2	
学術情報係	5		5	10	
情報サービス係	5		17	22	うち 小平研究保存図書館 1 時間外開館職員 6
電子情報係	1	(1)	1	2(1)	係長は専門員が兼務
人数合計	16(1)	3	24	43(1)	

※( )内は、外数で兼務を示す。学術情報課内での兼務については、人数合計欄において兼務分の計上はしていない。

### 7.3 附属図書館研究開発室

附属図書館研究開発室は、図書館機能の強化に関する様々な調査研究を行うため、平成24(2012)年4月に設置した組織である。業務内容の見直しおよび効率化を図るため、平成30(2018)年10月に一橋大学附属図書館研究開発室規則の一部改正を行った。

#### (1) 役割

- 歴史的資料の保存・公開に関する調査研究
- 附属図書館の情報発信の機能強化に関する調査研究

#### (2) 体制

令和7(2025)年5月1日現在

	氏名	所属・職名	任期
室長	野口 貴公美	附属図書館長	令 6. 9. 1～令 8. 8. 31
室員	石居 人也	社会学研究科教授	平 30.12.10～令 8. 3. 31
	加藤 圭木	社会学研究科准教授	平 30.12.10～令 8. 3. 31

#### (3) 成果の公表：『一橋大学附属図書館研究開発室年報』

研究開発室の年間の活動および研究成果を公表することを主たる目的とし、併せて図書館活動に関わる事業・調査・研究報告を行うため、平成24(2012)年度に『一橋大学附属図書館研究開発室年報』を創刊し、以降年1回刊行している。一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”で、本文の電子公開を行っている。

[https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/search/030150/?cate\\_schema=10000](https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/search/030150/?cate_schema=10000)



## 7.4 附属図書館委員会名簿

令和 7(2025)年 5 月 1 日現在

所属・職名		氏名	任期
附属図書館長	教授	野口 貴公美	令 6.9.1～令 8.8.31
役員補佐	教授	加納 隆	令 6.9.1～令 8.8.31
経営管理研究科	教授	島本 実	令 6.4.1～令 8.3.31
〃	教授	円谷 昭一	令 7.4.1～令 9.3.31
経済学研究科	教授	川平 友規	令 6.4.1～令 8.3.31
〃	教授	大山 睦	令 7.4.1～令 9.3.31
法学研究科	准教授	土井 翼	令 6.4.1～令 8.3.31
〃	教授	安藤 馨	令 7.4.1～令 9.3.31
社会学研究科	教授	田中 拓道	令 6.4.1～令 8.3.31
〃	教授	鈴木 直文	令 7.4.1～令 9.3.31
言語社会研究科	教授	川本 玲子	令 6.4.1～令 9.3.31
ソーシャル・データサイエンス研究科	准教授	坂野 遼平	令 6.4.1～令 8.3.31
経済研究所	教授	雲 和 広	令 6.1.1～令 9.3.31
全学共通教育	教授	台坂 博	令 6.4.1～令 8.3.31
〃	教授	星名 宏修	令 6.4.1～令 8.3.31
社会科学古典資料センター	教授(兼務)	森 宜 人	令 2.4.1～
学術・研究推進部	部長	藤井 典宏	令 7.4.1～
図書館長が必要と認めた者 役員補佐(図書館担当)	教授	只野 雅人	令 7.4.1～

## 7.5 歴代附属図書館長

初代	高垣 寅次郎	大 15.11.29 ～昭 11.2.10
第2代	本間 喜一	昭 11. 2.10～12. 3. 5
第3代	吹田 順助	昭 12. 3. 5～19. 8.11
第4代	山田 雄三	昭 19. 8.11～21.12. 1
第5代	村松 恒一郎	昭 21.12. 1～25. 5.18
第6代	山口 茂	昭 25. 5.18～26. 6.18
第7代	加藤 由作	昭 26. 6.18～28. 7.14
第8代	村松 恒一郎	昭 28. 7.14～35. 3.31
第9代	高橋 泰蔵	昭 35. 4. 1～36. 4.16
第10代	森田 優三	昭 36. 4.16～40. 3.31
第11代	馬場 啓之助	昭 40. 4. 1～43. 3.31
第12代	板垣 興一	昭 43. 4. 1～46. 3.31
第13代	小泉 明	昭 46. 4. 1～50. 9.10
第14代	増淵 龍夫	昭 50. 9.10～53. 9. 9

第15代	木村 増三	昭 53. 9.10～56. 9. 9
第16代	大川 政三	昭 56. 9.10～59. 9. 9
第17代	川井 健	昭 59. 9.10～61.11.30
第18代	森田 哲彌	昭 61.12. 1～平元. 6.15
第19代	外池 正治	平元. 6.16～ 3. 6.30
第20代	宮川 公男	平 3. 7. 1～ 6. 6.30
第21代	中村 政則	平 6. 7. 1～ 9. 6.30
第22代	石 弘光	平 9. 7. 1～10.11.30
第23代	安藤 英義	平 10.12. 1～13.11.30
第24代	池間 誠	平 13.12. 1～16.11.30
第25代	斎藤 修	平 16.12. 1～20.11.30
第26代	渡辺 雅男	平 20.12. 1～22.11.30
第27代	江夏 由樹	平 22.12. 1～26. 3.31
第28代	青木 玲子	平 26. 4. 1～26.11.30

第29代	山部 俊文	平 26.12. 1～30. 3.31
第30代	大月 康弘	平 30. 4. 1～令 2. 3.31

第31代	三隅 隆司	令 2. 4. 1～6. 8. 31
第32代	野口 貴公美	令 6. 9. 1～

## 8. 沿革

1875年	8月	森有礼が銀座尾張町に商法講習所を私設する。
1884年	3月	商法講習所は農商務省の直轄となり、東京商業学校と改称する。
1885年	9月	東京商業学校、東京外国語学校および同校所属高等商業学校を併せて、新たに東京商業学校と称し、神田区一ツ橋通町の旧東京外国語学校舎に開設する。 初めて図書室を設け、図書掛3名を置く。
1887年	10月	高等商業学校と改称する。
1894年		図書館を新築する。
1899年	4月	附属外国語学校が再び分離独立し、東京外国語学校(現・東京外国語大学)となる。
1902年	4月	勅令により東京高等商業学校と改称する。
1909年	2月	新図書閲覧所(木造2階建)が開館する。
1917年	5月	御大典記念図書館(鉄筋4階建書庫、木骨煉瓦張事務室および閲覧室)が竣工する。
1920年	4月	大学に昇格し、東京商科大学が発足する。
1923年	9月	関東大震災により、本学校舎の大半を失うが、図書館内の蔵書および三井ホールに保管中のメジャー、ギールケ両文庫は厄災を免れる。
1926年	9月	勅令により官制上初めて、本学に附属図書館が設置される。館長と司書2名を置く。
1930年	10月	新キャンパス(現・国立市)で附属図書館が開館する。
1936年	4月	東京府北多摩郡小平村(現・小平市)に図書館予科分館(後の小平分館)が開館する。
1944年	9月	東京産業大学と改称する。
1947年	3月	大学名を東京商科大学に復する。
1949年	5月	国立学校設置法が公布され、一橋大学が発足。 附属図書館の事務組織が確立する。事務長および本館に4係(総務、洋書、和漢書、閲覧)、分館に図書係を置く。
1969年	4月	小平分館(鉄筋2階建)を新築する。9月開館。
1977年	3月	図書館貴重書書庫(現・社会科学古典資料センター建物)が竣工する。
1978年	4月	社会科学古典資料センターが発足し、図書館長がセンター長を併任する。 部課長制を敷き、整理課、閲覧課の2課を置く。
1980年	3月	図書館新館(鉄筋コンクリート造3階建)が竣工する。9月開館。
1981年	6月	情報処理センター汎用機を利用し、新館閲覧業務の電算処理を開始する。
1991年	2月	図書館業務電算システム“HERMES”を導入する。
1996年	9月	図書館新館(現:雑誌棟低層部分)改修及び増築(現:雑誌棟高層部分)竣工。10月開館。
	10月	附属図書館ウェブサイトを開設する。
1997年	4月	小平分館を廃止し、小平図書収蔵庫とする。
	6月	WebによるOPACおよびCD-ROM検索サービスを開始する。

2000年	10月	附属図書館新本館が開館する。新館を雑誌棟に改称する。
2001年	11月	一橋デジタルアーカイブス“HDA”を公開する。
2004年	4月	国立大学法人に移行する。旧附属図書館事務部と事務局研究協力部門および情報処理部門を併せて「学術・図書部」に改組する。
2007年	5月	一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”を公開する。
2014年	1月	小平図書収蔵庫を改修する。
	4月	小平研究保存図書館を設置する。
2020年	2月	附属図書館ウェブサイトを更新、HERMES-Search をメイン検索ツールとする。
2023年	1月	大学の国際競争力強化と財務基盤強化に向けた事務組織改革に伴い、附属図書館の事務を所管する学術情報課は、従来の「学術・図書部」から改められた「学術・研究推進部」に置かれる。

## 一橋大学附属図書館概要 令和7(2025)年度 2025年6月発行

編集発行：一橋大学附属図書館

〒186-8602 東京都国立市中2丁目1番地

TEL 042-580-8223 MAIL lib-dm@ad.hit-u.ac.jp

Website： <https://www.lib.hit-u.ac.jp/>

X(旧Twitter) [https://www.twitter.com/hito\\_lib](https://www.twitter.com/hito_lib) [@hito\_lib]

Facebook： <https://www.facebook.com/hitotsubashi.university.library>